

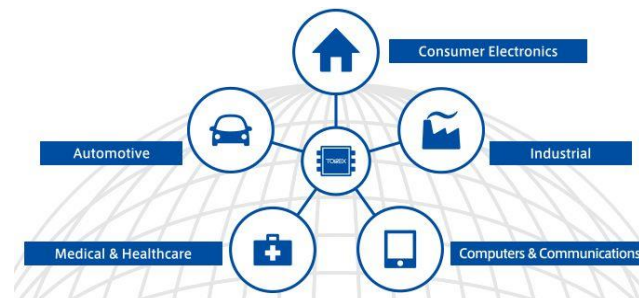
2019年3月期 第3四半期 決算説明資料

2019年2月13日

トレックス・セミコンダクター株式会社

世界は「アナログ」でできている

あらゆるフィールドで活躍するトレックスの電源IC



1

2019年3月期 第3四半期業績

2

2019年3月期 業績予想

3

株主還元

Appendix

2019年3月期 第3四半期業績

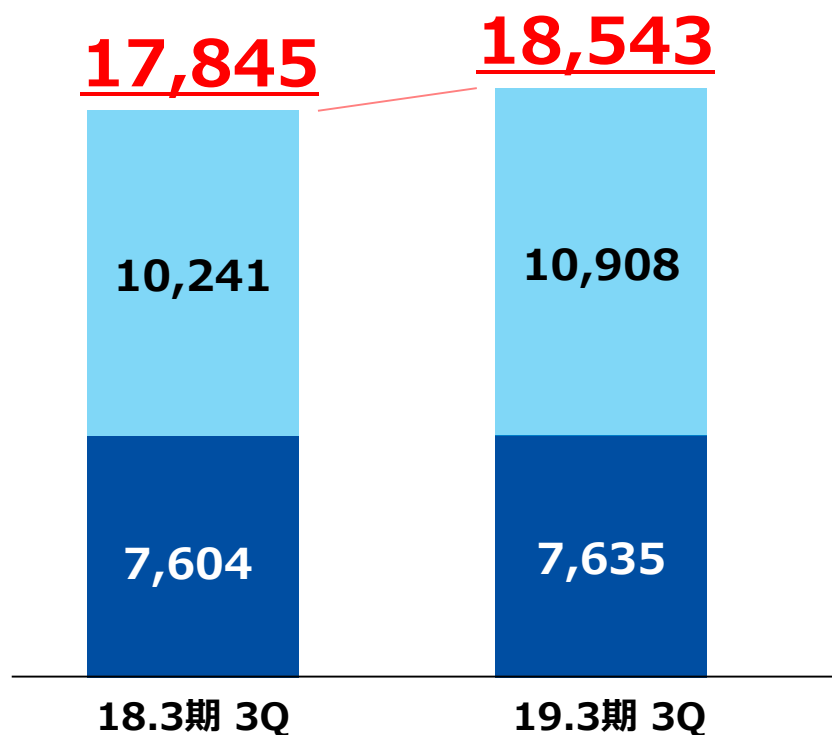
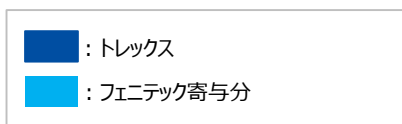
- ▶ **トレックスは、産業分野の好調により増収増益**
- ▶ **フェニテックは、工場統合による費用増加で増収減益**
- ▶ **3Qの12月以降、事業環境に変化**

（単位：百万円）

科目	18.3期 3Q実績	19.3期 3Q実績	対前年同期比 増減率
売上高	17,845	18,543	3.9%
営業利益	1,640	1,662	1.4%
営業利益率	9.2%	9.0%	▲0.2pt
経常利益	1,713	1,969	15.0%
親会社株主に 帰属する四半期純利益	794	1,087	36.9%
EPS（円）	87.80	100.17	14.1%
海外売上高比率（*1）	71.4%	71.3%	▲0.1pt
平均為替レート（1\$=）	¥111.8	¥110.8	-
減価償却費	680	734	7.9%
設備投資	539	2,793	418.2%

（*1）海外売上高比率：外貨建て売上比率

(単位：百万円)



➤ トレックス

- 産機分野が好調
- 医療やウェアラブルも堅調に推移

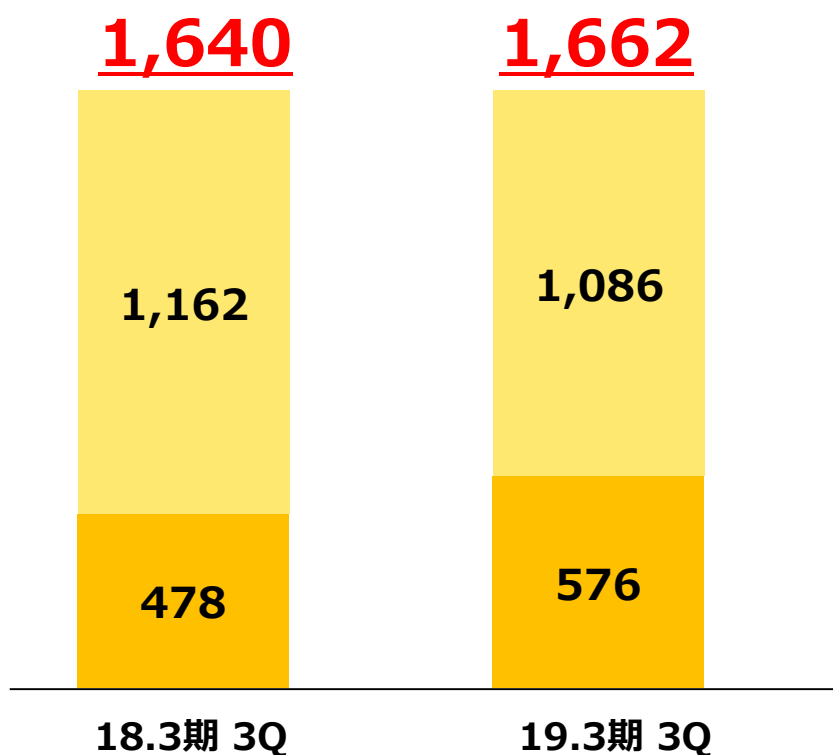
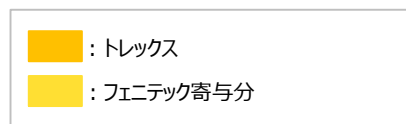
➤ フェニテック

- 車載分野が好調に推移
- 国内売上が堅調

(単位：百万円)

	18.3期 3Q実績	19.3期 3Q実績	対前年同期比増減率
売上高	17,845	18,543	3.9%

(単位：百万円)



➤ トレックス

- 減価償却費等の販管費の減少により増益

➤ フェニテック

- 修繕費や工場統合に伴う減価償却費等の増加により減益

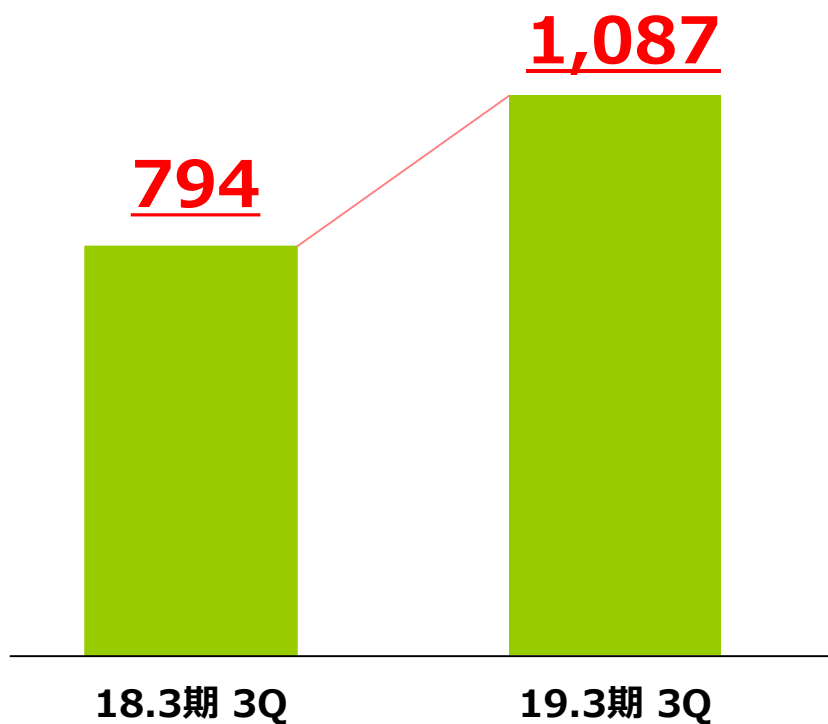
(単位：百万円)

	18.3期 3Q実績	19.3期 3Q実績	対前年同期比増減率
営業利益	1,640	1,662	1.4%

2019年3月期 第3四半期業績 親会社株主に帰属する 四半期純利益



(単位：百万円)



営業利益の増加に加え、営業外収益
として為替差益271百万円が発生した
こと等により増益

(単位：百万円)

	18.3期 3Q実績	19.3期 3Q実績	対前年同期比増減率
四半期純利益	794	1,087	36.9%

(単位：百万円)

科目	18年3月期末	19.3期 3Q	対前期末増減
資産	27,995	28,333	338
負債	8,909	8,426	▲483
純資産	19,085	19,906	821

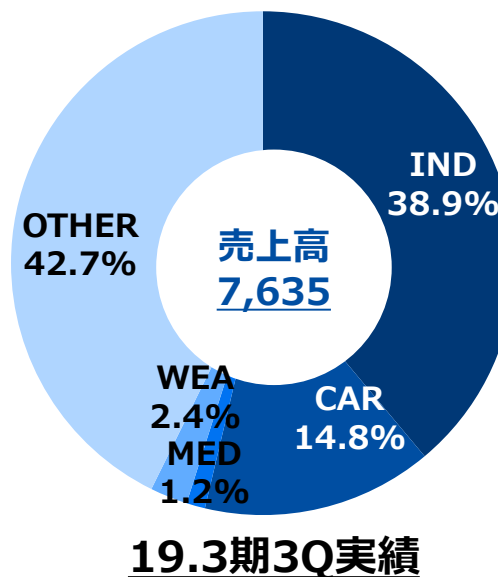
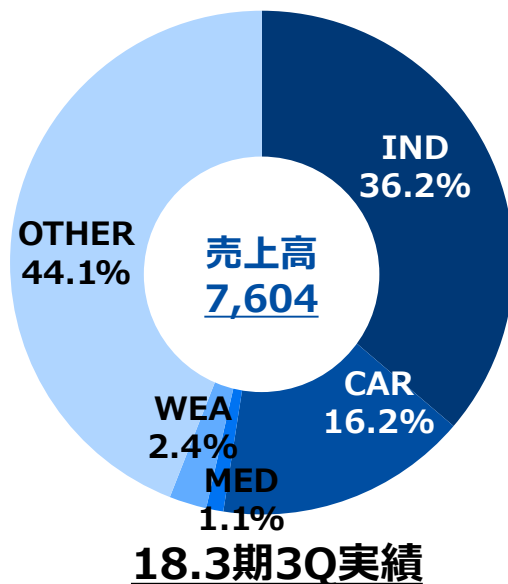
＜参考＞ キャッシュ・フロー関連指標の推移

科目	18年3月期末	19.3期 3Q	対前期末増減
有利子負債	5,059	5,045	▲14
自己資本比率	51.8%	56.9%	5.1pt
D/Eレシオ	0.35	0.31	▲0.04

トレックス／フェニテック 各単体

2019年3月期 第3四半期業績 ～アプリケーション別売上高（トレックス）：参考値

TOIREX



車載・産機シェア

52.4%

(18.3期3Q)



53.7%

(19.3期3Q)

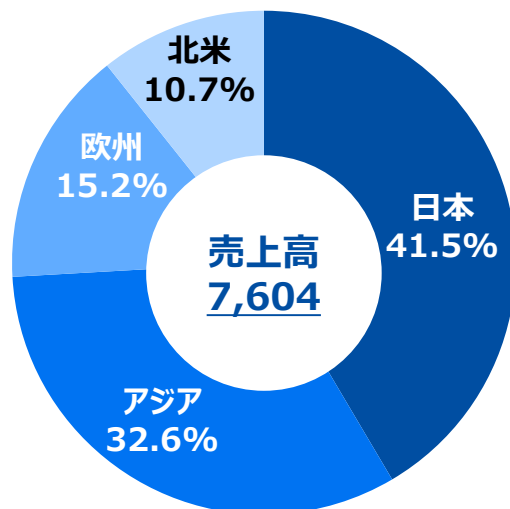
(単位：百万円)

アプリケーション		18.3期 3Q		19.3期 3Q		対前年同期比 増減率
		売上高	構成比	売上高	構成比	
IND	産業機器	2,756	36.2%	2,974	38.9%	7.9%
CAR	車載機器	1,234	16.2%	1,127	14.8%	▲8.7%
MED	医療機器	84	1.1%	88	1.2%	4.8%
WEA	ウェアラブル機器	180	2.4%	182	2.4%	1.1%
OTHER	その他機器	3,350	44.1%	3,264	42.7%	▲2.6%

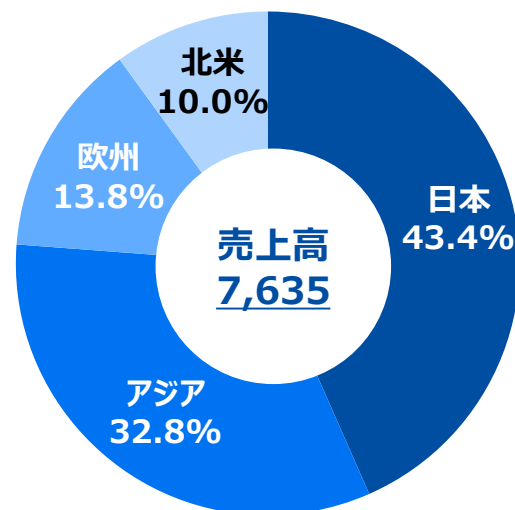
※注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

2019年3月期 第3四半期業績 ～地域別売上高（トレックス）

TOIREX



18.3期3Q実績



19.3期3Q実績

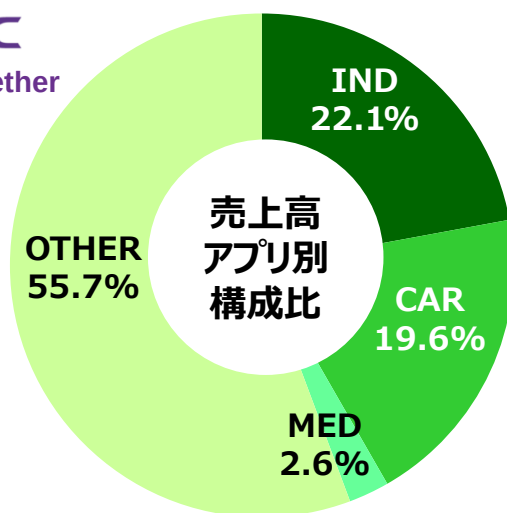
(単位：百万円)

地域（D-in）	18.3期 3Q		19.3期 3Q		対前年同期比 増減率
	D-in 売上高	構成比	D-in 売上高	構成比	
日本	3,152	41.5%	3,315	43.4%	5.2%
アジア	2,482	32.6%	2,505	32.8%	0.9%
欧州	1,156	15.2%	1,051	13.8%	▲9.1%
北米	814	10.7%	764	10.0%	▲6.1%
平均為替レート（1\$=）	111.8円		110.8円		—

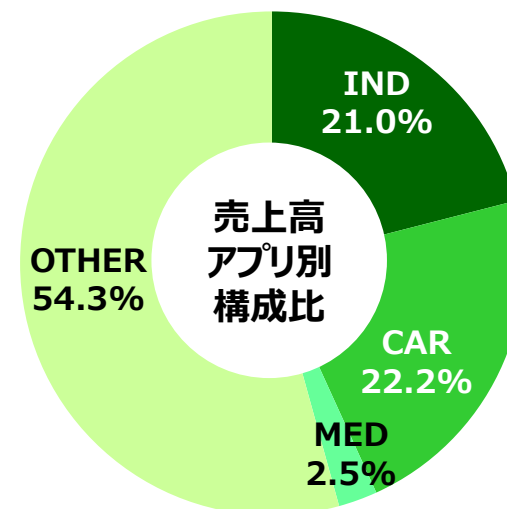
D-in 売上高：デザイン・イン・ベース売上高。当社の製品を搭載した製品が企画・設計され、実質的に受注を獲得した地域をベースとした売上高

2019年3月期 第3四半期業績 ～アプリケーション別売上高（フェニテック）：参考値

Phenitec
For Further Growth Together



18.3期3Q実績



19.3期3Q実績

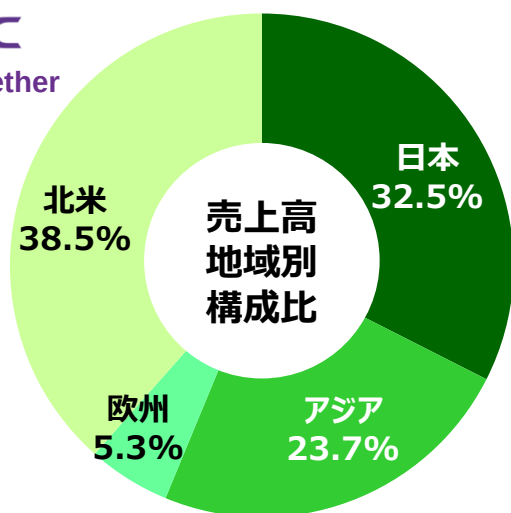
(単位：百万円)

アプリケーション		18.3期 3Q		19.3期 3Q		対前年同期比 増減率
		売上高	構成比	売上高	構成比	
IND	産業機器	2,518	22.1%	2,564	21.0%	1.8%
CAR	車載機器	2,232	19.6%	2,704	22.2%	21.1%
MED	医療機器	298	2.6%	306	2.5%	2.7%
OTHER	その他機器	6,351	55.7%	6,610	54.3%	4.1%

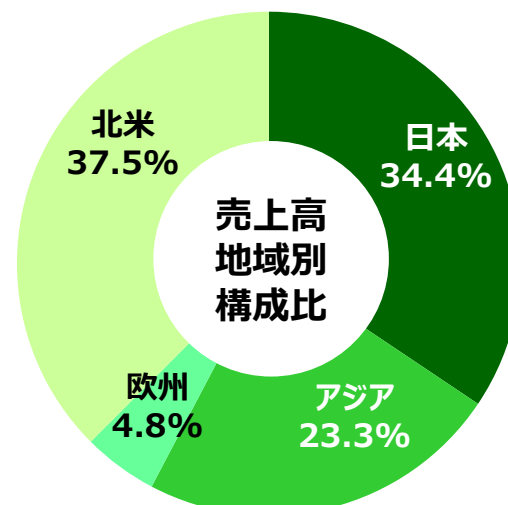
※注：アプリケーションの分類は変更することがあります。
トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含む

2019年3月期 第3四半期業績 ～地域別売上高（フェニテック）

Phenitec
For Further Growth Together



18.3期3Q実績



19.3期3Q実績

※ 顧客の所在地別に区分しています。

(単位：百万円)

地域（顧客）	18.3期 3Q		19.3期 3Q		対前年同期比 増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比	
日本	3,703	32.5%	4,197	34.4%	13.3%
アジア	2,709	23.7%	2,839	23.3%	4.8%
欧州	602	5.3%	584	4.8%	▲3.0%
北米	4,385	38.5%	4,564	37.5%	4.1%
平均為替レート（1\$=）	111.8円		110.8円		

※注：日本には、トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含む

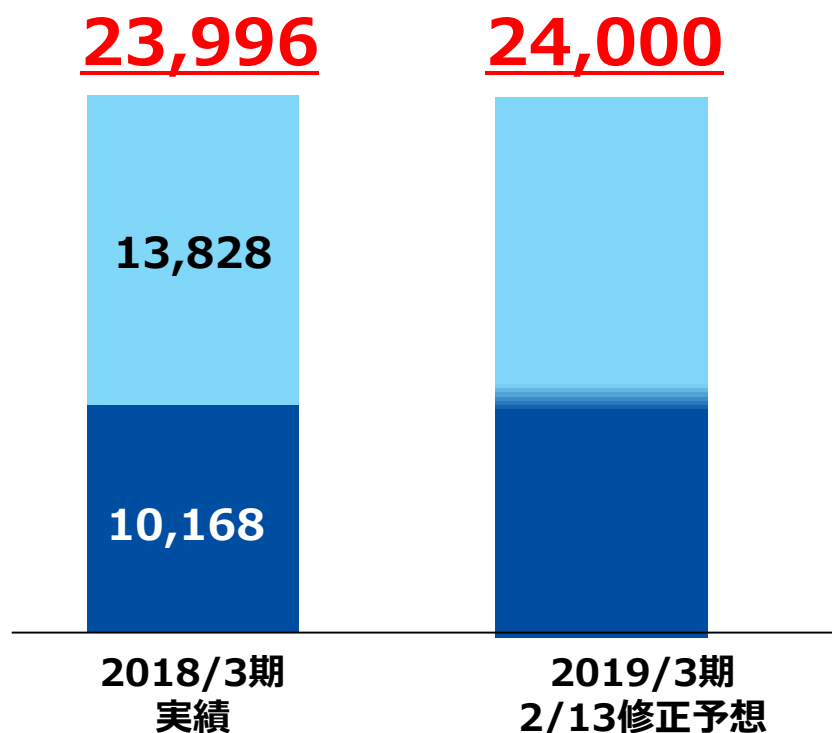
2019年3月期 業績予想

(単位：百万円)

科目	18.3期通期 実績	19.3期通期 修正予想 (2/13発表)	対前年同期比 増減率	19.3期通期 修正予想 (11/12発表)	対修正予想比 増減率
売上高	23,996	24,000	0.0%	26,300	▲8.7%
営業利益	2,212	1,700	▲23.2%	2,200	▲22.7%
営業利益率	9.2%	7.1%	▲2.1Pt	8.4%	▲1.3Pt
経常利益	1,998	2,000	0.1%	2,560	▲21.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	902	1,050	16.4%	1,420	▲26.1%
EPS (円)	99.12	95.95	▲3.2%	131.06	▲26.8%
平均為替レート (1\$=)	¥110.8	¥110.0	-	¥110.0	-

(単位：百万円)

■ : トレックス
■ : フェニテック寄与分



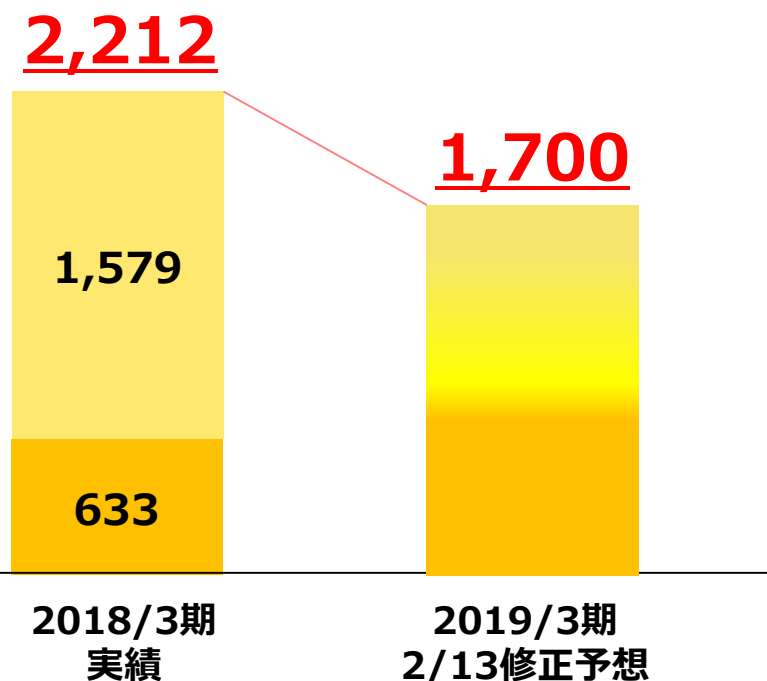
- ・ 3Q後半からの急激な市場変化により横ばい
- ・ 車載、産業機器製品のシェア拡大を継続

(単位：百万円)

	2018年3月期 実績	2019年3月期 2/13修正予想	対前年増減率
売上高	23,996	24,000	0.0%

(単位：百万円)

■ : トレックス
■ : フェニテック寄与分



高収益体制の構築

フェニテック本社工場と第一工場の統合にかかる設備投資と経費増加、更には昨今の材料費の高騰が予想され、売上原価の上昇による一時的な減益が見込まれますが、統合後により高い収益性を持つための取り組みです。

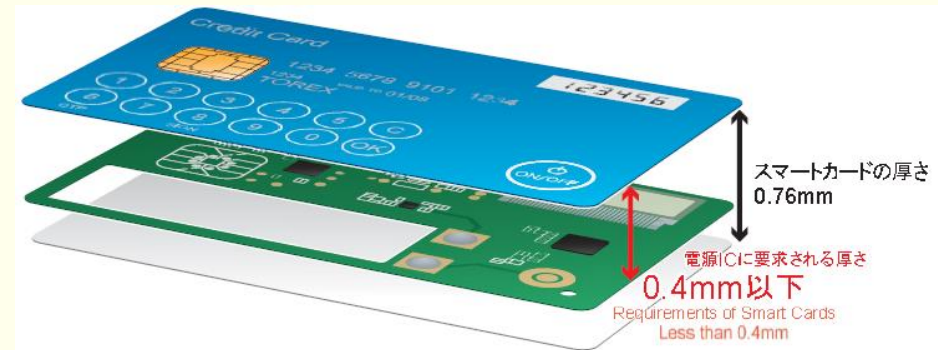
2018年9月から試作を開始し、順次生産移転を進めています。移転期間中、本社工場も効果的かつ効率良く稼動を継続させるため、生産体制に影響はありません。

	2018年3月期 実績	2019年3月期 2/13修正予想	対前年増減率
営業利益	2,212	1,700	▲23.2%

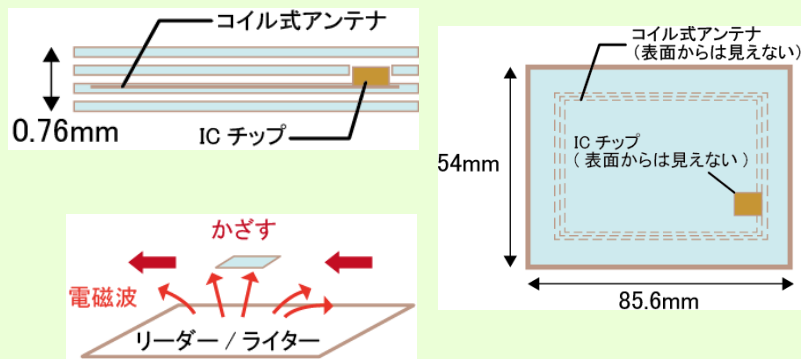
■スマートカードの低背パッケージ要求

スマートカードは、ISO/IEC 7810の国際規格により、寸法・厚さ（53.98mm×85.60mm×0.76mm）が規格されている。

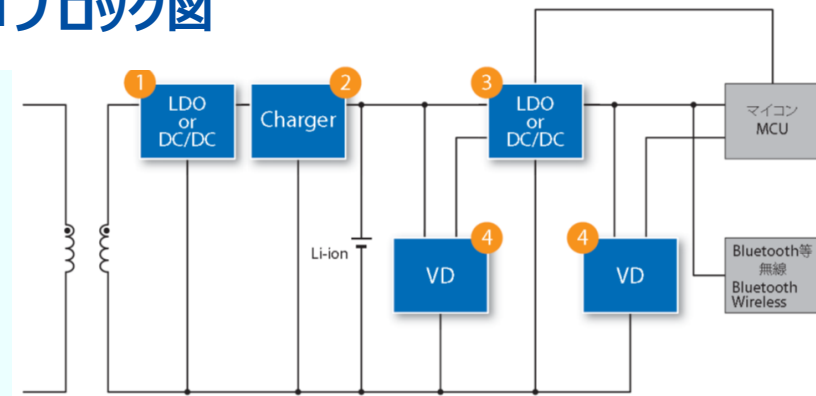
スマートカードには、アンテナとICチップが内蔵され、ICチップには記録機能や演算機能及びRFID, BT等が搭載。また、ディスプレイ搭載機種が増え、Li-ionが搭載されているカードが普及しておりLDO及びチャージャーICの需要が期待される。



■非接触型ICカード



■ブロック図

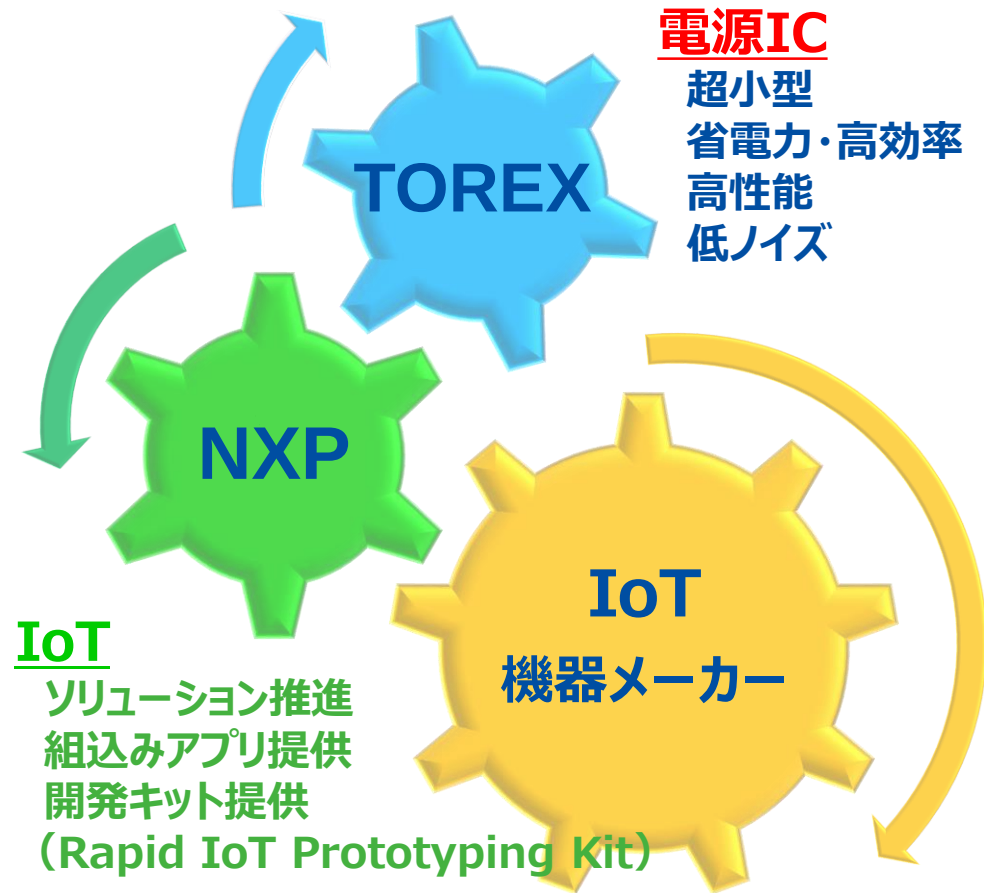




NXP セミコンダクター社が開発・提供する、IoTエッジ・デバイスに向けたプロトキット “Rapid IoT Prototyping Kit” に、

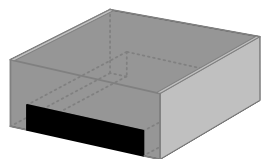
- ・ コイル一体型 “micro DC/DC”
- ・ 低オン抵抗負荷スイッチ

が採用されています。

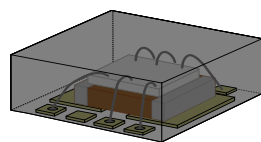


IoT 新製品開発・早期リリース貢献
省電力製品ができる！

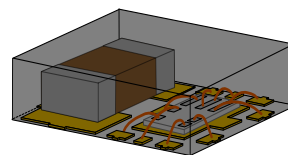
4種パッケージタイプで、小型低ノイズから 低背大電流まで、高効率で全方位カバー



①低ノイズ

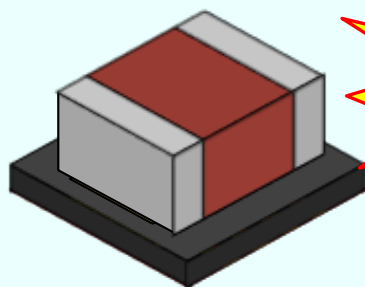


②ローコスト



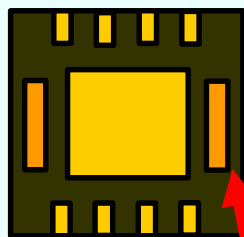
③大電流・低背

④高放熱



新パッケージ
追加

裏面図



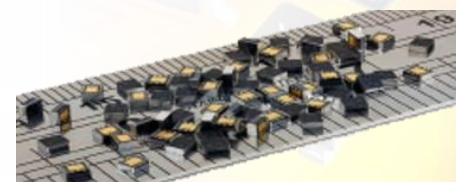
断面図



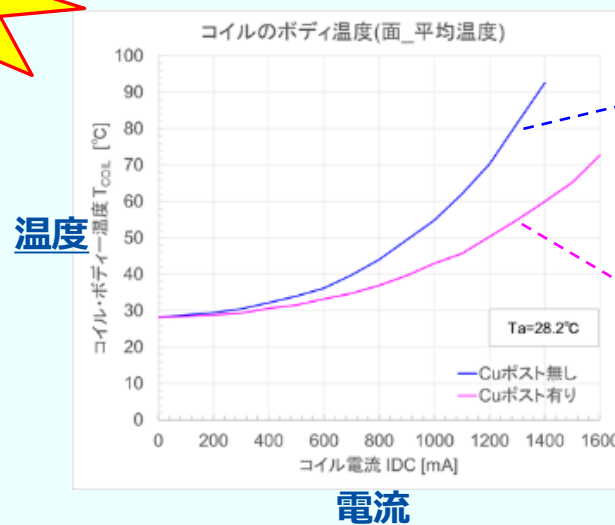
Cuポストが熱を実装基板へ放熱

幅広い用途

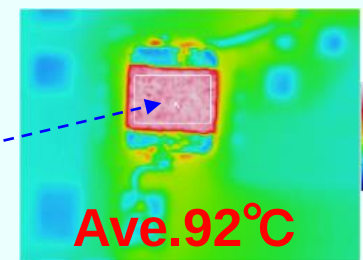
- ・ 小型携帯機器
- ・ Bluetooth、WiFi機器
- ・ IoTデバイス
- ・ 産業機器
- ・ 車載機器



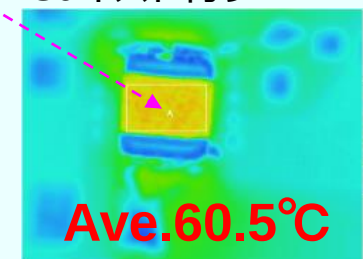
■ 特性例



Cuポスト無し



Cuポスト有り



本社工場の第一工場への統合① 新棟完成



本社工場を第一工場へ統合

既存棟増床



新棟建設



試作製品流動



量産用設備移動



お客様の承認を受け、順次量産移管



2018年8月27日
落成

移設完了予定

2018年度

2019年度

2020年度

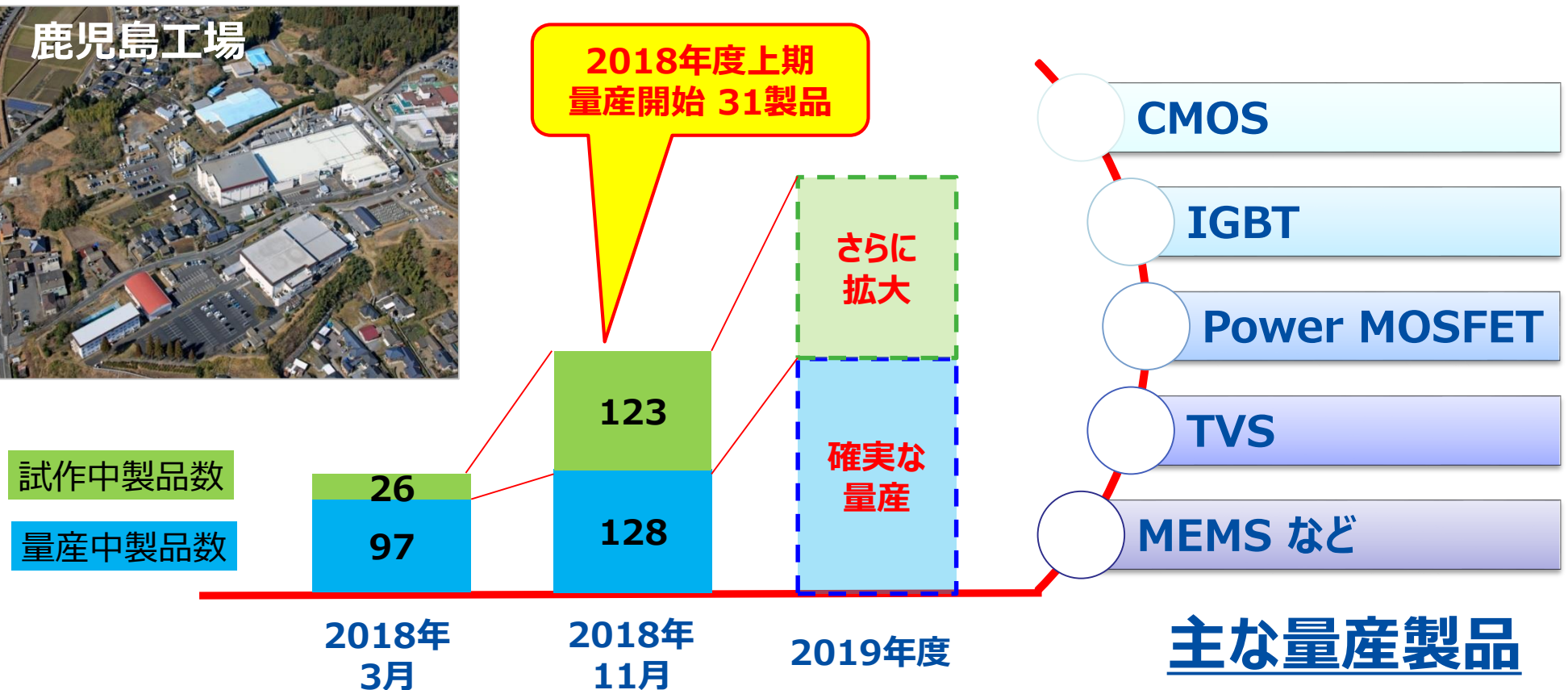
統合効果

- ・ 製品の長期安定供給体制の継続
- ・ 5インチ → 6インチ化による 生産効率向上（6インチ比率：統合前 24% ⇒ 統合後 64%）
- ・ 適切な装置とレイアウトによる 生産効率向上
- ・ 省エネルギー構造の工場による 製造コストの低減
- ・ 車載・産業機器向け品質の維持/向上
- ・ 新棟で本社工場の特徴である金、白金などの重金属加工工程を保有

生産性向上
製造コスト低減
高収益体制の構築

鹿児島工場の特長

- **6インチ** / 0.18 μ mの加工、化合物半導体 SiC デバイス開発
 - 第一工場(岡山)プロセスと類似装置
 - 2019年 IATF16949取得予定
- BCP対応 (地震・降灰・停電)**
車載製品対応

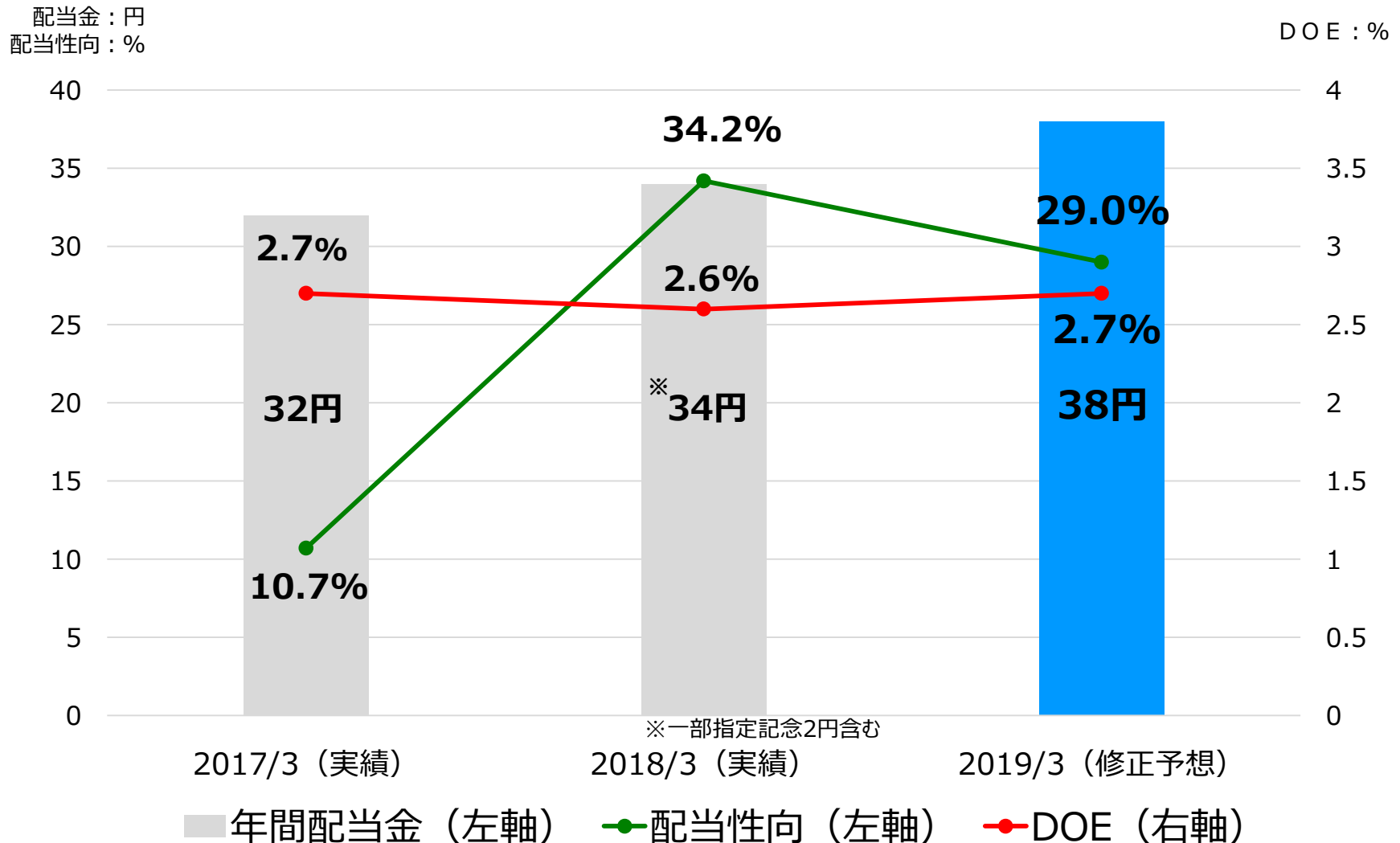


株主還元

戦略的投資による成長力の向上を図りつつ、当社を取り巻く経営環境並びに中長期の連結業績及び株主資本利益率の水準を踏まえて実施していくことといたします。

配当につきましては、業績水準を反映した利益配分として連結配当性向20%以上、安定的かつ継続的な株主還元
の拡充として株主資本配当率（D O E）3%程度を当面
の目標として実施してまいります。

連結配当性向20%以上、D O E 3%程度を目安に還元



Appendix 会社紹介

2014年4月にJASDAQスタンダード市場に上場、2015年10月に東証二部に市場変更し、2018年3月に東証一部指定となった、創業23年の半導体メーカーです。

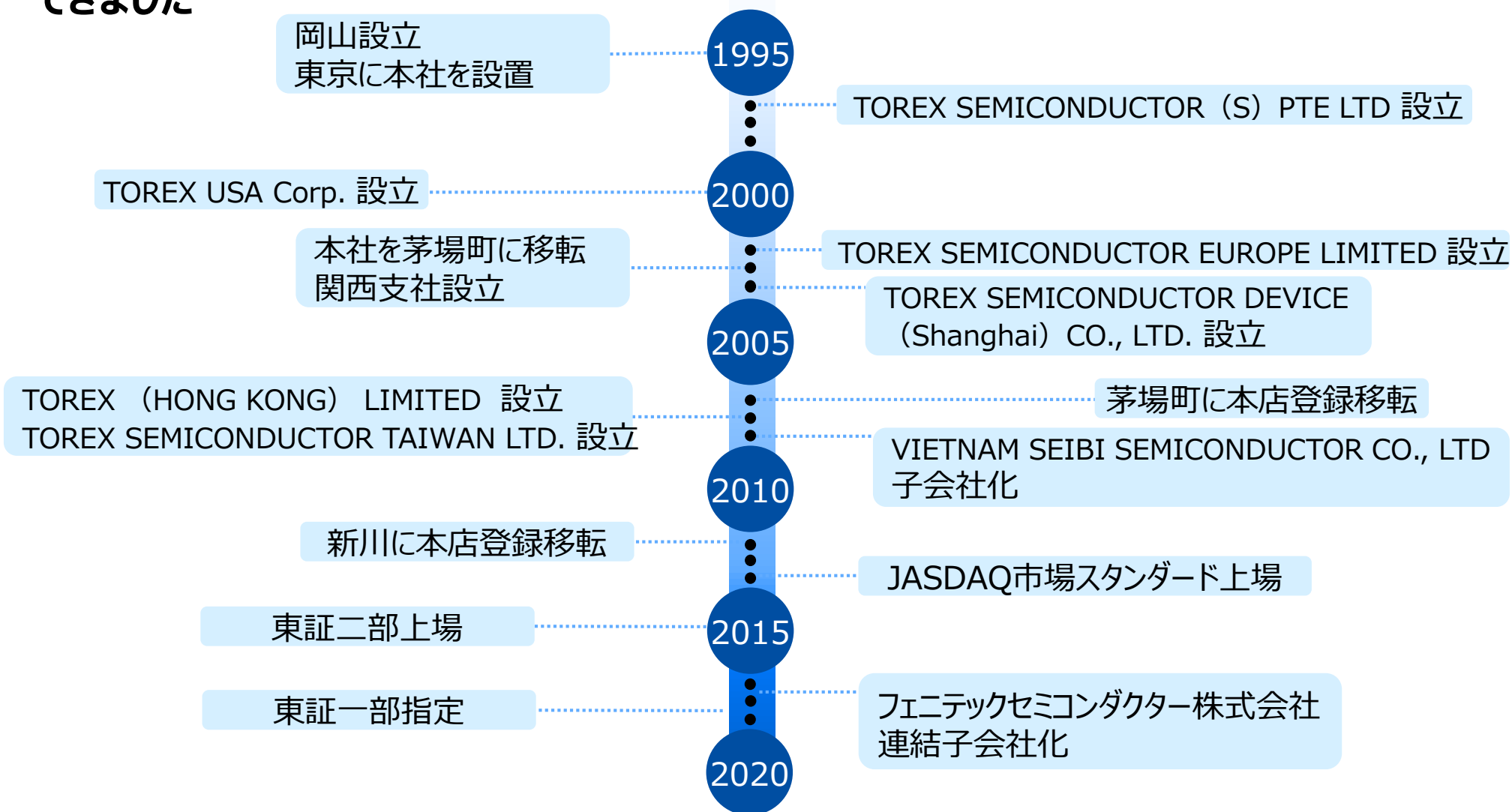
アナログのチカラ
ABOUT TOREX

所在地	東京都中央区新川1-24-1 にぎろ新川永代通りビル
代表者	代表取締役会長 藤阪 知之 代表取締役社長 芝宮 孝司
資本金	29億6793万円（2018年12月31日現在）
事業内容	1.半導体デバイスの開発、設計製造 2.半導体デバイスの販売
従業員数	当社：163名 / グループ：1,009名
上場証券取引所 及び上場日	東京証券取引所 市場第一部 2018年3月22日
単元株式数	100株
決算期	3月末日
証券コード	6616
URL	https://www.torex.co.jp/

常に豊かな知性と感性を磨き、市場に適応した価値ある製品を創出し、豊かな社会の実現と地球環境の保全に貢献するとともに、私たちの事業に携わるすべての人々が共に繁栄することを企業の理念とする。



- 電源IC一筋、**省電力・小型化**の技術でエレクトロニクス産業技術の発展に貢献してきました



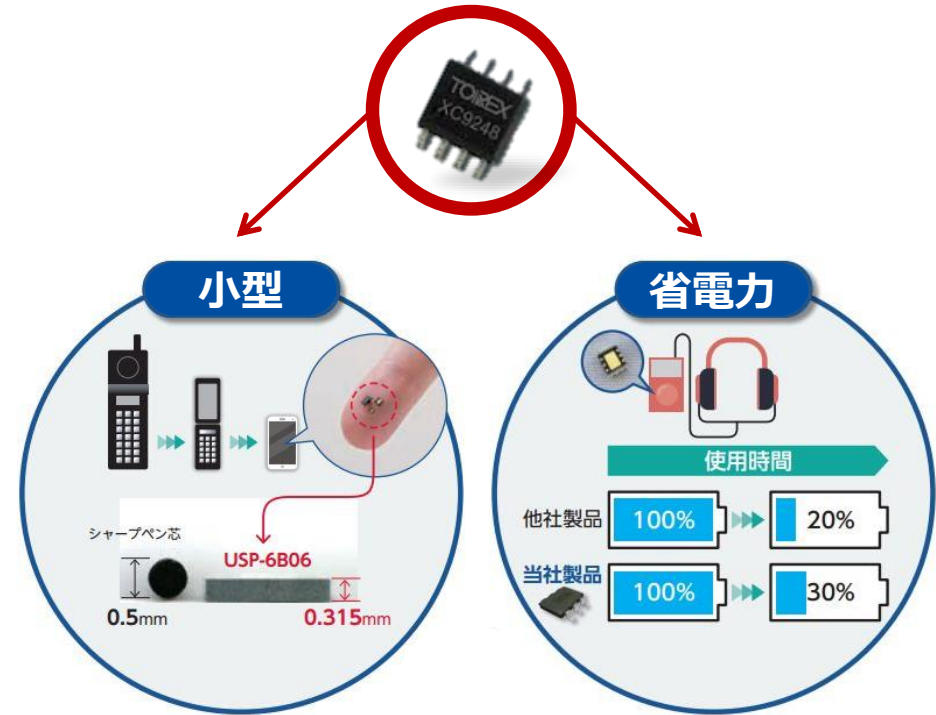
- 世界トップクラスの小型・省電力電源ICを開発・販売しています。

電源ICの役割



電子機器の様々な機能を動かすために
電圧を制御し安定供給する

TOREXの電源IC



独自の技術で電子機器の
小型化、省電力化に貢献

- 国内に東京本社を含む 8 拠点、海外6カ国に8つの拠点を設け、世界の需要に対応しています。



本資料に記載された内容は、2019年2月13日現在において一般的に入手可能な情報と、合理的と判断する一定の前提に基づき、当社が作成したものです。

本資料に記載されている当社の中期計画、見通し等に関する記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。

実際の業績は、これらの要素により本資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

投資に関するご決定をされる際、本資料のみに全面的に依拠することはお控えいただき、みなさまご自身のご判断でなされるようお願い致します。

Powerfully Small!

常に豊かな知性と感性を磨き、
市場に適応した価値ある製品を創出し、
豊かな社会の実現と
地球環境の保全に貢献するとともに、
私たちの事業に携わるすべての人々が
共に繁栄すること

